

《さまざまな考えを踏まえ討論をする 話例》

図書館へのAIの導入

司会 これから話し合いを始めます。テーマは、「図書館へのAIの導入」についてです。
では、ハルさん、提案をお願いします。

ハル はい。私は図書館の司書の立場で話します。図書を整理する作業が大変です。新しく購入した本や貸し出しから返却された本を、AIによってすぐ分類して配架する作業を簡単にしてほしいです。

司会 司書の立場からの意見でした。では、図書館を利用する立場としてアキさんやナツさんはどうでしょうか。

アキ はい。私は調べ学習をするとき、図書館を利用する中学生の立場で話します。私が調べたいことを伝えたら、それに合う本をすぐに探してくれるようなAIがあればとても助かります。

ナツ 私は、図書館を利用する、コンピューターの操作に詳しくない人の立場で話します。司書のかたとお話ししながら、おもしろそうな本を見つけるのが楽しいです。だからAIは必要ありません。

司会 先ほどハルさんは、図書の整理にAIをと述べていましたが、アキさんやナツさんが述べていることは、利用者の検索という点では同じですね。このことについてハルさんはどう考えますか。

ハル 利用者それぞれでコンピューターに慣れているかどうか違いがあるということはそのとおりだと思います。ですので、利用者への対応という点では、利用者に合わせた準備が必要だと思います。

アキ コンピューターに慣れているかどうかというほかに、自分一人で探したい、自分のペースやタイミングで探したいという人もいれば、司書のかたとのコミュニケーション

ンを通じて自分にはない情報や考え方も取り入れながら探したいという人もいそうですね。

ナツ もしかしたら、コンピュータが不得意でも、コンピュータで探した方が効率的・効果的に探せる場合もあるかもしれませんね。

司会 そうですね。そうになると、コンピュータに慣れているかどうかだけではなく、どう探したいのか、どう探すべきかということも含めて、A Iを選ぶのか司書さんを選ぶのかということの選択ができるようになるといいですね。

アキ 探す過程でも、A Iと司書のかたをうまく組み合わせるということも考えられそうですね。

司会 一方、最初にハルさんが言われた、本の整理にA Iが使えるならば、それは便利なことですね。

ナツ A Iを活用して蔵書を点検・管理する公立図書館もあるそうです。

ハル A Iを活用することによって浮いた時間を、利用者の皆さんの案内に使えますので、ぜひ、導入したいですね。

司会 まとめますと、利用者に対してA Iを導入するときは、利用者それぞれのコンピュータへの慣れや、どう探したいかに応じて、A Iを用いるか司書さんに相談するか、利用者が選べるようにする必要がありますね。それとは別に、図書の整理には積極的に導入できるといいですね。